

# SCCM2012+SCEP構築

## 背景

今回のお客様はクライアント構成管理システムリプレースの為、System Center 製品を用いた運用管理基盤の構築を検討しており、その中でも、弊社ではクライアント構成管理製品である「Configuration Manager (SCCM)」の導入実績が豊富にあったことから、お声掛け頂き、ご支援する運びになりました。

本SCCMのバージョン(2012)より、今まで別製品であった「Forefront Endpoint Security」の後継製品である、「System Center Endpoint Protection」の管理が統合され、クライアントPCに関わるセキュリティ機能を提供でき、3rdパーティ製のウイルス対策ソフトウェアが不要となります。

本事例では、SCCMによるクライアント構成管理機能、およびセキュリティ対策機能の実装、および運用設計を弊社にて対応致しました。

## 概要

業種	流通・小売業
目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>クライアント切り替えに伴う構成管理基盤のリプレース</li> <li>クライアントセキュリティ機能のリプレース</li> <li>セキュリティパッチ導入機能のリプレース</li> <li>リモートコントロールツールのリプレース</li> </ul>
作業規模	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用ユーザー数:約5万名</li> <li>総サーバー台数:2台</li> </ul>
作業ボリューム	3人月
作業内容	System Center 2012 Configuration Manager機能設計/構築/動作試験

## 作業効果

### SCCMによるSCEPの統合管理

今回、お客様はクライアントのリプレースに伴い、ウイルス対策製品をサードパーティ製製品から、Microsoft 社の System Center 2012 Endpoint Protection (SCEP)に切り替えを実施されました。

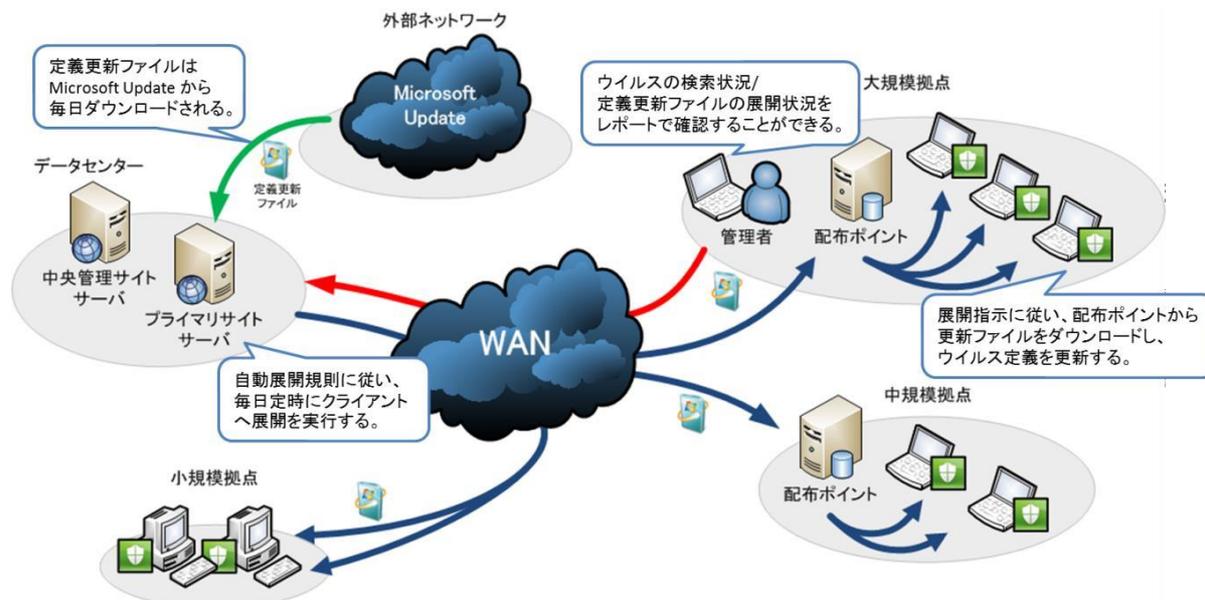
SCCM 2012 では、SCEP の統合管理機能が標準として実装されている為、今回の機能設計に伴って、SCEPの統合管理規則及び定義更新ファイルの自動更新規則を設定いたしました。

※SCEPの定義更新ファイルは、Microsoft Update の更新分類の1つと

なっている為、SCCMのセキュリティパッチ展開機能で、展開することができます。

これによりコストを抑え且つ、構成管理機能とウイルス対策機能を一元管理することができました。また、SCEPを用いることにより副次的な効果としてコスト削減にもつながっております。

※SCEP のクライアントライセンスは、Microsoft製品のCore CAL Suite に内包されております。



## BITSによる帯域負荷の平準化

お客様環境では、各地の拠点にWANを介してネットワークが構成されておりました。

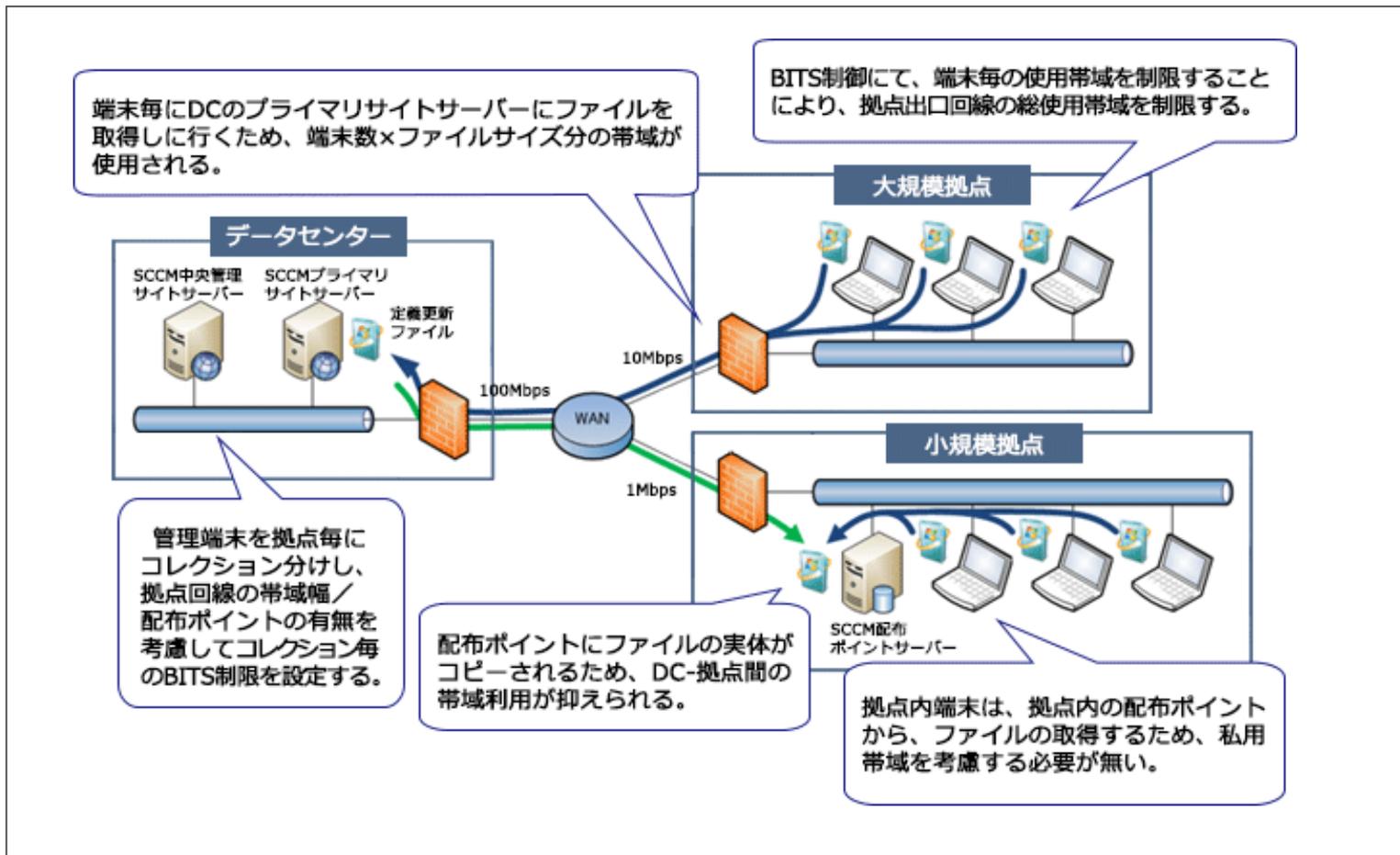
しかし、拠点によりネットワーク帯域が異なっており、帯域が狭い拠点に関しては、SCCMの通信により既存のネットワーク通信に影響を与えないようシステムを構成する必要がありました。

SCCMでは、セキュリティパッチなどを展開する際に、クライアントからサーバーの保有しているファイルなどの資源にアクセスする仕様となっている為、各拠点の出口ネットワークの帯域使用率を考慮する必要がありました。

1つとなっている為、SCCMのセキュリティパッチ展開機能で、展開することができます。

これによりコストを抑え且つ、構成管理機能とウイルス対策機能を一元管理することができました。また、SCEPを用いることにより副次的な効果としてコスト削減にもつながっております。

※SCEP のクライアントライセンスは、Microsoft製品のCore CAL Suite に内包されております。



### ※1: コレクション

SCCMの管理対象デバイスおよびグループを論理的にグループ化する機能。

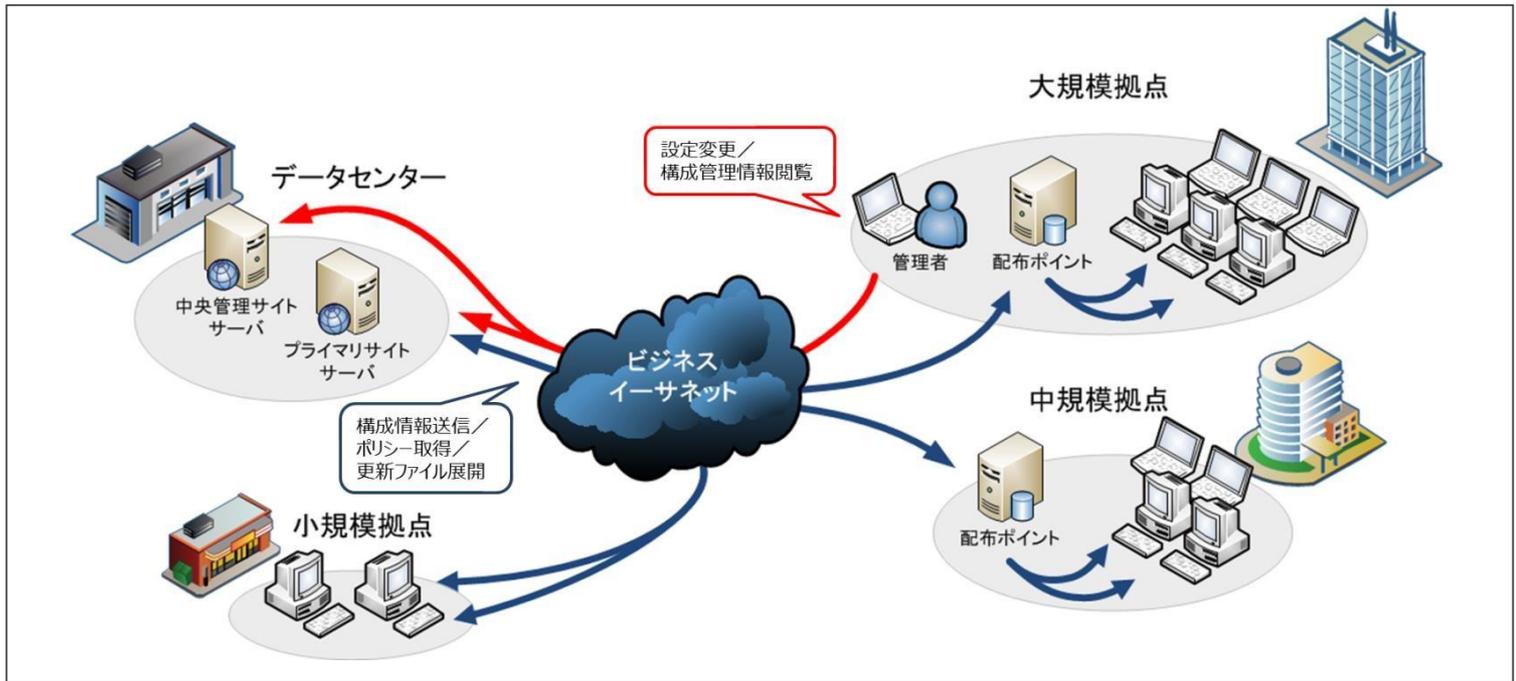
SCCMでは、このコレクションに対して、クライアント設定、ソフトウェア展開などを定義することができる。

管理対象は複数のコレクションに設定することができ、競合するような設定に関しては、優先順位を設定することが可能。

### ※2: BITS (Background Intelligent Transfer Services)

アイドル状態のネットワーク帯域幅のみを使用して、インターネット経由でファイルを転送するように設計されたファイル転送サービスHTTP、FTP、または共有フォルダーでのファイルの転送と異なり、BITS では利用可能な帯域幅をすべて使用するわけではないので、他サービスなどのネットワーク通信に影響を与えることなく、ファイルをダウンロードすることが可能。

構成図



弊社利用による効果

Power Shell スクリプトを活用した運用手法の効率化

管理規模が大きくなれば大きくなるほど、SCCMに設定すべき項目も増え管理作業も増加していきます。

特に、SCCMは管理するネットワーク境界や、コレクション、クライアント設定、セキュリティ規則、セキュリティパッチの展開情報など管理すべき情報も多く、管理業務は多岐に渡ります。

SCCM 2012 SP1より、管理を効率化する為に有用なPowerShell のコマンドレットが内包されました。

これらのコマンドレットを活用して運用スクリプトを作成することにより、お客様の工数を削減することに貢献いたしました。

例えば、SCCM上でのコレクション作成作業は一般的に1コレクション10～15分程度かかるのですが、本件では、CSVに記述された設定を基にコレクションを自動設定するスクリプトを作成させていただき、1コレクションあたり数秒で作成可能になりました。また、コレクションの設定をCSVファイルから一括で読み込むことが可能ですので、1回の操作で複数のコレクションを一度に作成することが可能な仕様としております。

